

総合優勝は電気科

工高祭
応援号6



工高タイムス

北海道旭川工業
高等学校新聞局

〒078-8804
北海道旭川市緑が丘
東4条1丁目1-1

発行人(局長)
稲留 駿斗
(電気科3年)

「科が一丸となった結果」

最高の締めくくり

第51回工高祭が7月3～4日に行なわれた。表彰式は4日15時30分から体育館で行なわれ、総合優勝は電気科で、建築科の6連覇を阻止した。学年総合優勝は1年生は建築科、2年生は電気科、3年生は電子機械科だった。



総合優勝した電気科の3年生(試験のため8人欠席)

工高祭結果

総合	電気科
1位	電子機械科
2位	電子機械科
3位	建築科
1年	クラス企画
1位	情報技術科
2位	電気科
3位	電子機械科
2年	クラス企画
1位	電気科
2位	電子機械科
3位	土木科
3年	クラス企画
1位	電子機械科
2位	建築科・土木科
1年	クラスステージ
1位	土木科
2位	建築科
3位	電子機械科
2年	クラスステージ
1位	電気科
2位	建築科・情報技術科
3年	クラスステージ
1位	電子機械科
2位	電気科
3位	土木科
垂れ幕	建築科
1位	建築科
2位	電気科・情報技術科
1年	総合
1位	建築科
2位	電気科
3位	土木科
2年	総合
1位	電気科
2位	情報技術科
3位	建築科
3年	総合
1位	電子機械科
2位	電気科
3位	建築科



喜びに沸く電気科(手前が3年)

総合優勝を果たし、代表して賞状を受け取った電気科3年の鈴木広大君は「とても驚いており、とてもうれしい。クラスが一丸となり、3年生はクラスステージ、2年生はマリオやお化け屋敷の企画、1年生も負けじとダンスを披露してくれた。このように学科全体が一丸となって準備したからこそ、この結果につながった」と話した。

電2

クラスが協力し準備

建1 来年はクオリティを上げる

2年総合優勝した電気科H R委員長の山本琥太郎君は「建築科の連覇を止めたので最高の気持ちになった。クラス企画の『お化け屋敷』では準備に模擬店で手のあいている人が助けてくれ、時間を有効に使えたのが良かった。来年は2連覇を達成し、電気科

一強にしたい」と話した。クラスステージリーダーの阿部航大君は「盛り上げたいところで盛り上がったことがうれしい。放送局との連携で照明と音響がうまくいった。山本琥太郎君が製作した小道具や衣装はクオリティが高かった」と話した。

1年総合優勝に輝いた建築科H R委員長の太田桜空さんは「クラスステージは本番でアドリブをする場面が多かったが、自分たちでできる最高のパフォーマンスができた。クラス企画は一人ひとりがベストを尽くし納得のいくものを企画することができた。模擬店は当日材料が不足し何度も買い出しが必要になるほどの売れゆきだったので、結果的に良かった。来年はクオリティを上げ、すべての部門で表彰されることが目標」と語った。

「がったのだと思う」と受賞の瞬間の喜びを語った。学年を超えた電気科の強固なチームワークが、今回の勝利を引き寄せる大きな原動力となった。5連覇していた建築科を破つての優勝に鈴木君は「電気科

が歴史を塗り替えたので、後輩たちには来年も引き続き頑張ってもらいたい」と今後に向けて1、2年生へ期待の言葉を寄せた。また、工高祭全体の盛り上がりを取り返り「今年の工高

祭は生徒会長の歌から始まり、各科の素晴らしい発表や企画を見ることができた。最高の締めくくりとなり、改めてこのクラスで良かった」と語り、充実した表情で最高の思い出を噛み締めていた。

生徒会役員は工高祭の計画を4月から始めた。直前には全日制と定時制の生徒と先生、来校者の分を合わせてプログラム1600部を印刷し製本した。

生徒会誌編集委員長の今西孝太君(電2)は「スムーズに進行や運営を行なうことができた。閉祭式までに順位を出すことができた。反省点は開祭式で生徒に指示がうまく届かず整列が遅れた点と生徒会役員の連携がとれていなかった点、工高祭後のアンケートの集まりが少ない点だ。来年に

生徒会役員間の連携強化 盛り上がる工夫を 工高祭アンケートが少ない

向けて生徒会役員で交流を深めて協力体制を築きたい」と話した。会長の澤田宙陽君(電3)は「工高祭終わった後に生徒から『楽しかった』、来校者からは『今年はレベルが違う』と好評の言葉をもらったのがうれしかった。反省点は放送局との連携が十分ではなかった点と花火のときの整列に時間がかかった点。次期生徒会役員には今年みたいにやり過ぎないでいいから、会場が盛り上がるような工夫を皆で話し合ってもらいたい」と話した。



工具箱

皆さん、先日の工高祭はいかがだったでしょうか。盛り上がったクラスステージや美しい花火、そして熱気にあふれた模擬店など、それぞれ胸に残る思い出ができたのではないかと思います。3年生にとってはこの祭りの終わりが、本格的な進路活動のスタートラインだ。これから始まる夏休みは面接練習や履歴書の作成に追われ、1、2年生のときとは一味違う緊張感のある忙しい休みになる。早いうちに進路目標を定めておくことが、納得のいく志望理由を作る鍵となるので参考にしたい。▼ところで、皆さんは資格を取得する際、何を基準に選んでいるだろうか。「学科で全員が受けるから」「興味があるから」など理由は様々だと思ふ。しかし、検定料も決して安くはないため、ある程度の覚悟と目的意識を持って臨むべきだ。進路目標が決まっている人は必要な勉強に集中すべきだが、まだ迷っている人は「とにかく挑戦して取っておく」のも手だ。思いがけず進路が変わったとき、その資格が自分を助けてくれるかもしれない▼私事だが、先日「2級電気工事施工管理技術検定(一次)」に合格した。合格すれば現場の安全や品質を管理する監督の補佐ができる資格だ。私が進路目標とする企業とは直接関係のない分野ではあるが、諦めずに学びきった経験と取得した実績は将来どんな道に進んでも決して損にはならないと感じている。

(電3 稲留)

有志企画
演劇部

はちゃめちゃんなコメディ

アドリブにもうまく対応

演劇部は工高祭2日目の12時30分から視聴覚室で、きなもち作の「コンビニ強盗」を

上演した。コンビニエンスストアに強盗が包丁を持って押し入るのだが、その強盗に対

する店員や客の対応が普通ではなく、なぜか強盗がツッコミを入れる側にまわるとい



はちゃめちゃんなコメディ作品だ。工高祭の公演で演劇部はギャグ作品をやりたいと考え、台本をインターネットからいくつかピックアップして、部内で投票してこの作品に決まった。

女子高校生の客の役を演じた副部長の西中美咲さん(化2)は「練習期間中は部長が資格試験を間近に控えていたため、試験勉強と演劇の練習がかぶってしまったので、普段劇を見てアドバイスをしてくれる演出の存在がいなかったのが大変だった。

垂れ幕

「やろう」を彫る

旭工での学びが将来に

垂れ幕の優勝は建築科だった。製作期間は約2週間で、

1〜3年生の9人が担当した。デザイン案を3年生3人で考

え、小堀瑠海さん(建3)が仕上げた。絵のメインは「やろう」を彫っている人で、建築科の特性を生かしたデザインになっている。旭工で学んだことが将来につながるというストーリーを持たせている。

小堀さんは「下書きをするてほしい」と話した。



優勝した建築科の垂れ幕

有志
ステージ

雰囲気良かった

曲間のトークを改善する

定時制軽音部の11人は「安全第一」のバンド名で演奏を



「安全第一」が4曲を演奏

披露した。演奏した曲はマカロニえんぴつの「ワンドリンク別」、バックナンバーの「ブルーアンバー」、Wursts(ワーツ)の「わかってないよ」、SHISHAMOの「君と夏フェス」の4曲。

ギターとボーカルを担当した部長の中岡ゆづほさん(定時制電4)は「昨年と比べて開始時間が1時間も早くなり、会場のお客さんの集まりが少なかったが、昨年の工高祭で有志ステージのバンドをして聞いた全日制の生徒が最前列で聴きに來てくれたことや少人

た。本番では私のアドリブに後輩たちがうまく合わせてくれたので、スムーズに演じることができた。お客さんがた

くさん入ってくれて良かった」と話した。

数ではあったものの拍手があまり、会場内の雰囲気良かったことがうれしかった。改善点としては曲の合間に言う言

葉をもっと考えれば良かった」と語り、来年の工高祭で有志ステージのバンドを組む後輩に向けて「楽器を経験したことがない生徒が多いので、1曲でも曲を完成させ演奏してほしい」と話した。

有志企画
書道部

書道を楽しむ

仲間の空間に



書道部は3階の多目的室Bで書道の展示を行なった。書道パフォーマンスで書いたSHISHAMOの「明日も」の歌詞と個人作品を展示した。

小堀瑠海部長(建3)は「2年生中心に効率よく準備を進め、展示も丁寧だった。初めて書道をする生徒も多いので、来年も書道を楽しみ、同じ趣味を持つ仲間の空間にしてほしい」と話した。

巨大
オブジェ

今後の利用も考慮

各科真剣に取り組む

巨大オブジェの歓迎門は生徒会役員の担当者1人、2年

生4人、1年生30人の計35人で製作した。6月23日から作業が始まり、工高祭1日目の朝に完成した。製作は工高祭の準備期間中に同窓会館「朝日子の館」の1階多目的室で行なった。



完成した巨大オブジェの歓迎門

今年の巨大オブジェは今後の工高祭でも使用できるように土台となるものを造ることを目的に、建築科から足場を提供してもらい、表面はベニヤ板を使用し強度と効率を高めた。工夫した点は、むだが出ないようにダンボールは使

用せず、全日制生徒会の物庫にあった木材やペンキを主に使った点と骨組みをより高くするために足場に鉄パイプを付けたし、補強のため鉄パイプの間に木材を入れた点だ。

担当の生徒会長の澤田宙陽君(電3)は「今回は私と2年生は土台造りに専念し、各科の模型は1年生に任せましたが、どの科も真剣に作業に取り組んでいて、予想していたよりもスムーズに作業が進んだり、自分たちで案を考え試行錯誤しながらとても素晴らしい模型を製作してくれたことに本当に感激している。反省点は作業が終わった後の時間の過ごし方について指示を出して、有効に使うことができれば良かった」と語った。